

相談室便り 5月号

保護者 様

令和3年5月
堀江中学校 相談室

『言わないで』

新年度がスタートして1ヵ月余りがたちました。お子さんの様子はいかがでしょう。このコロナ禍にあって、私たちの日常は1年前と大きく変わらず今も自粛生活が続いています。校内も同様に、生徒たちは様々な制限の中で学校生活を送っています。子どもたちの忍耐力と対応力には目を見張るものがありますが、一方でこころのバランスを崩している生徒も少なくありません。

相談室には様々な悩みを抱えた生徒たちが来室します。友人関係や家族との関係、部活や勉強の悩み等々、内容は百人百様です。それらに対しカウンセラーはまず、問題解決に向けて本人と一緒に策を考えますが、そのプロセスで多くの生徒が「言わないで」と言葉を吐きます。

友達に言わないで、親に言わないで、先生に言わないで。

この号では「親に言わないで」について書きます。カウンセラーにそう訴える彼らの本意はどこにあるのでしょうか。私が「あなたのその苦しい気持ちを家の人は知っているの？」と聞くと、ほとんどの生徒は首を横に振ります。更に「言わないのは、なぜ？」と質問すると、多くの返事は「心配かけたくないから」と。親からの反撃を恐れる訴えも中にはありますが、生徒たちの多くは中学生なりの親への気づかいを示しています。家族に打ち明けられない思春期の葛藤は避けて通れませんが、しかし、親が理解を示せば解決は容易だと感じるケースも数多くあります。

私たち親は「何でも聴くよ」の姿勢を保ち、事実を知っても理不尽な“反撃”を子どもに向けないことが大切です。理想論の押し付けは通用しにくい年齢でしょう。論破せずに腹をくくって我が子の言い分に耳を傾け、家族は最強のサポーターであることを示してあげてください。「言わないで」と発していた子どもの気持ちに変化を起こしてあげましょう。

